

研究・調査報告書

| | |
|---|-------------------|
| 報告書番号 | 担当 |
| 32 | 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学 |
| 題名 (原題/訳) | |
| Alexithymia, craving and attachment in a heavy drinking population. 多量飲酒集団における失感情症、アルコールに対する渴望や執著 | |
| 執筆者 | |
| Thorberg FA, Young RM, Sullivan KA, Lyvers M, Connor JP, Feeney GFX | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| Addictive Behaviors 36 (2011) 427-430 | |
| キーワード | |
| 失感情症、渴望、執著、アルコール依症 | |
| 要 旨 アルコール使用障害 (AUD) を人の50%は失感情症、人づきあいの困難さと関連すると仮説づけられている人格をもっている。失感情症、渴望、人付き合いに対する不安とアルコール依存の重症度との関連について、アルコール依存のための認知行動療法プログラム (CBT) に参加する254人を対象に検討した。対象者はトロント失感情症スケール (TAS-20)、強迫的飲酒スケール (OCDS)、人づきあいに関する不安サブスケール改訂版 (RAAS-Anxiety)、アルコール使用障害に関する識別テスト (AUDIT) が実施された。MANOVA(手変数分散分析)の結果、失感情症をもつ人がそうでない人に比べ総OCDS、アルコールに対する強迫観念、そして強迫的飲酒衝動がと行動が有意に高かった。回帰分析によって、人づきあいに対する不安が部分的に失感情症と渴望との関連を緩和することがわかった。人づきあいに対する不安はアルコール依存と失感情症の人におけるアルコール消費量を減らすことに照準をあてた治療のターゲットとなる可能性がある。 | |